

群馬県 グループホームあじさい 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H19.4に職員全員で話し合い、新理念を作った。理解しやすいわかりやすい言葉で表現し、ケアの際に活かせるものとなった。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会やケアプラン・年間目標・月間目標を検討するときなど、理念を活用し、悩んだ際には理念に戻るよう伝えている。個別ケアの際に活かされている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	目立つところに理念を掲示している。生活の様子を「あじさい便り」で伝えている。慰問や行事を掲示したり、外に出る機会を作るようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や花に水を撒くときなど、近隣の方にあいさつしたり、話しかけるようにしている。お花見や映画会にお誘いしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板にあじさい便りや慰問の案内を入れていただいている。校区の芸能隊を見に行ったり、買い物に行き顔見知りになり声をかけていただいている。	○ 地域の行事は夜間に山道を登るお祭りしかないもので、リスクの面から参加できていない。来年度隣保班の班長なので是非交流を持つ機会を増やしたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居希望のお電話から介護相談になることがある。情報提供をしたり、少しでも気持ちが楽になればとお話を伺うようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に1回自己評価を職員が個人で行い、勉強会で全員で見直すことをしている。求められている事を確認してもらい、実施している事と比較し、考え、改善する良い機会と捉えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行い、近況報告や課題などをお伝えしている。意見交換の場を持ち、理解を深めている。参加できない方には議事録でご確認いただいている。参加できない方にも事前に確認したいことや議題にして欲しい事を伺うように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、交流する機会を持っている。生活保護受給者の受入れをしているので社会福祉課とも連携を取っている。ご理解いただけるようあじさい便りを送っている。お花見に参加していただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修で学び、伝達研修を行っている。入居時に必要な方には制度をお知らせし、利用を勧め、安心した生活をしていただけるよう支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学び、伝達研修を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居日とは別に契約日を設け、書面を一緒に全て確認している。面会時にもコミュニケーションを図り、不安や疑問はないか伺うようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に苦情相談窓口があることや、外部にも苦情処理機関があることを伝えている。玄関に意見箱の設置。運営推進会議でもご意見を伺うようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>あじさい便りで近況報告する以外にも、面会時には近況報告をし、面会が少ない方は電話や手紙で報告をしたり写真を送ったりしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的な運営推進会議の開催。苦情処理窓口の設置。意見箱の設置。入居時に外部にも苦情処理機関があることを伝え、面会時に要望を伺い、職員全体で情報共有している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>勉強会で意見交換をし全員で討議できる機会を設けている。日常でもコミュニケーションを図り、話しやすい関係性になるようかかわっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者さまの生活や安全のため、勤務時間変更や業務内容の変更をしている。行事や外出にも対応できる体制になっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はない。楽しく働けるようにコミュニケーションを図り、個を尊重している。内部の勉強会・外部研修・食事会などでメリハリをつけるようにしている。職員間も信頼関係ができるよう、向き合っていてくれる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修の他に内部で勉強会を行っている。勤務内で外部の研修にも参加している。職員個人の状態に応じかわりかたを変えたり、責任を持ってもらったりしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホーム管理者と連携を取っている。相談したり、食事会を実施したり、慰問時には招待していただき、伺っている。その際職員も話す機会を持っている。施設見学実習や交換研修等に参加しケアを見直すきっかけにしている。職員交換研修や開設者研修の受入れを行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>普段からコミュニケーションを図り、個を尊重している。仕事以外の会話もし、関係作りに努めている。希望休は確実に休めるようにし、プライベートも大切にしてもらっている。会社負担の職員食事会を開催している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>コミュニケーションを図り、成長を伝えている。課題を一緒に解決できるようかわっている。個性を活かしてもらえるようかわっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に面会し不安を取りのぞけるようにしている。できる方には入居までに何度か食事やおやつの場に来ていただいている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学・契約時によく話を伺うようにしている。今までの状況やどう過ごして欲しいかなどご意見を伺うようにし、情報共有している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至らないというケースでもお話を伺い、情報を伝えたり、他の機関を紹介したりしている。伺った職員一人だけでなく、全員で話し合い必要なケアを考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に病院や施設に伺い、コミュニケーションを図っている。事前に情報をいただき混乱を軽減できるよう環境を整えたり、かかわり方を考えたりしている。ご家族から意見を伺える機会を多く持つようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・洗濯・掃除など一緒に家事を行い、お礼を言う関係性ができている。季節の行事などは教わりながら行い共に楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者さまの状況と一緒に喜び、一緒に心配している。慰問と一緒に楽しんでくださったり、面会時には他の利用者さんの話し相手をしてくださったり心配をしてくださっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生い立ちや生活歴を伺い、どんなかかわり方や距離がどちらにもよいのか話し合い、ストレスや不安にならないよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	したい時に電話をしてもらったり、年賀状・暑中お見舞いなどの支援をしている。今までのなじみの環境に出かけたり、お知り合いに声をかけていただいたときはゆっくり話していただいている。面会に来てくださった親戚・近隣・友人の方にはくつろいだり楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で過ごす時間を大切にし、笑顔で過ごせるよう環境に気配りしている。肯定的な会話を多くし、お互いを尊重していただけるような会話をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も病院にお見舞いに行ったり、特別養護老人ホームに面会に行ったりしている。お通夜やお葬式にも参列させていただいた。退居された利用者さまから電話があったり、遊びに来てくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バーバル・ノンバーバルから利用者さまの思いを捉え、今までの生活スタイルを継続していただいている。好きな時に好きな事をしていただけるよう決められた過ごし方はない。意思の疎通が難しい方はご家族と相談しながらケアをし、振り返りながら検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にいくつかのアセスメントシートをご記入いただき、情報共有している。生活歴などから価値観を知るよう努めている。その後得た情報は書き加えている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者さまの個々の状況を把握し、申し送り等で伝達し個別ケアをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時・面会時にご家族の要望を伺い、ケアプラン変更時には全職員から意見を出してもらい、すり合わせをして訂正し、ご家族に説明をさせていただいている。内服の相談や健康管理はかかりつけ医が定期的に行い、場合によってはご家族と相談していただいている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最長で3ヶ月で見直しをしている。状況の変化に応じて1ヶ月ごとに変更することもある。ご本人の状態によっては掘り下げ作業をし、望むケアを導き出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況・利用者さまの視点・介護者の視点に分けて記録し、わかりやすく記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	決められた過ごし方はなく、好きな時に好きな事をしていただき、個人の買い物や外出の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民謡・映画・アコーディオン・童謡・傾聴などの慰問が定期的にある。避難訓練・心肺蘇生法などの勉強会を定期的に行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性がある方にはギャジアップベッドを使っていたり、福祉用具を使っていたりしている。他のケアマネジャーと情報交換している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要な方やご家族の要望によって、権利擁護制度や後見人・成年後継人などをお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診希望な利用者さまは継続していただき、往診希望の方には隔週で往診がある。内科・皮膚科・歯科の往診をお願いしている。健康診断や点滴などにも来ていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	話し方・かかわりかた・記録や個人情報の取り扱いなど慎重に行っている。面会時には記録をしまい、居室に入る際には利用者さまに確認してから入る。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別ケア主体で生活していただき、選択する場面を作るようにしている。どうしたいか伺うようにしている。ご本人の能力に合わせた会話している。外出・外食等は意思を尊重している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務よりケアを優先し、臨機応変に対応してもらっている。朝ゆっくり起きる方や、夜中まで起きている方・買い物・散歩など過ごしたいように過ごしていただいている。	
ひるま			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物はご自分で行っていただき、選んでいただいている。こだわりの化粧品や髪型を維持できるよう支援している。入浴時、選べる方には衣類を選んでいただく。マニキュアを塗ることもある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食は利用者さまと職員で調理をする。何を作るか利用者さまと相談しながら献立を立てている。自ら洗い物をしてくださる方がいる。外食時には何が食べたいか相談しながら行き先を決めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お風呂あがりや外出先でのビールを楽しみにしていたり、行事の時には皆でおはぎやお団子・うどん・てんぷらなどを作っている。パンやおやつはいくつかの中から選んでいただくこともある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意あいまいな方には排尿チェックシートを使い、尿意便意を維持できるように支援している。誘導の際には自尊心や環境に配慮し声かけを行っている。不快な時間が長くならないよう個別で誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したいかどうか・いつがいいかを伺って希望に沿うようにしている。気の進まない方に無理強いはしない。どんな環境で気持ちよく入浴していただけるか話し合っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活に合わせてベット・布団を選んでいただいている。居室には自由にソファやテレビを置いていただいている。冬には和室にコタツを用意し、のんびりされている。個人のペースで過ごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から得意なことを発揮していただける環境を作るようにしている。織物をしていただ方には小さな機織り器を用意したり、農家の方には畑仕事をしていただいている。歌が好きの方にはカラオケなどを設けている。編み物そうじなどできることを楽しくできるように一緒に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さまの状態に合わせ、自己管理の方・あじさいで立替の方・あじさいで財布を預かる方など対応を変えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が一人になるとき以外は施錠せず好きな時に好きなところに行っていたりしている。重症化している方には付き添う。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアとして個人の買い物など実施している。ご家族にお願いしお墓参りに行っていただく事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを出す支援をしている。好きな時に電話を使ってもらっている。電話をかけることが難しい方には支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族以外にも近所の方やご友人にも来ていただけるよう面会時にはお話やお茶などでコミュニケーションを図り、次回につながるような家庭的なかかわりかたをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で理解している。身体拘束はしていない。薬や言葉での拘束もないようケアをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が一人になるとき以外は施錠しない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員が利用者さまの今いる場所や精神状態を把握し情報共有するようにしている。認知症や身体の状態に注意し、事故のないよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別で対応している。異食の可能性のある方の前に細かなものは置かない、石鹸は使ったら片付けるなどの配慮をしている。他の利用者さまはどこにおいてあるかを知っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を作り、多角度から視点を持ち、利用者様の安全な生活を話し合い、勉強会で伝えている。ひやりはつとを活かし、同じことを起こさないよう注意し、その後評価を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや適量・運動量・体質・医師の指導などから個別の対応をしている。栄養バランスを考えた献立を立てている。職員全員がカロリー計算ができる。飲水量が少ない方や終末期の方などは特に細かく対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	習慣的に手洗い・うがいなどを実施している。ご家族にもご理解いただき、面会時には同様に実施していただいている。インフルエンザは義務付けている。感染症の勉強会を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の勉強会を実施している。根拠に基づいたルールがあり、衛生管理している。賞味期限を守り、残ったものには作った日時を明記、まな板・包丁は蛋白質と野菜で分けるなど行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ドアを開放(開け放してある)。玄関先にガーデニングをしている。冬はイルミネーションを設置している。掲示板を用意し、あじさい便りや慰問のお知らせを掲示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングで家庭的な雰囲気になっている。和室にコタツ・お雛様を飾ったり、七夕の笹を置き飾り付けたりしている。日常の写真を掲示したり、暖簾をつけたりしている。季節の花を生けたり、テレビの音量に配慮し、トイレのにおいがないようにこまめに掃除し汚物を捨て、不快にないようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツやソファ・居室など気の合う方同士でお茶を飲みながら話される事がある。外で花に水をまきながら話される事もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの習慣や身体機能から布団やベッドの高さを検討している。使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり、テレビやソファなどを持ち込んでいただいている。好きな本や大事なアルバムを見て過ごされる事もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は換気を行う。換気・室温調整などは利用者さまと確認しながら行っている。エアコンを使用しているときは居室の入り口に手作りのカードを下げ、わかりやすくし、こまめに温度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、玄関にはスロープが設置されている。和室に段差があるが、色が違うためわかりやすらしく転倒はない。歩行困難な方も手すりやシルバーカーなどを使われ残存機能を維持している。職員には待つことの大切さを伝えている。個人の機能に合わせて椅子を変えている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の利用者さまの認知機能・生活習慣・価値観を共有し、その日の精神状態に合わせたかかわりかたをしている。個々の利用者さまの望む環境を職員全体で考え、残存機能を維持できるよう待つケアをこころがけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキでお茶や食事・バーベキューをしている。花や野菜・果実樹を植え、好きな方にはお世話をいただいている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さま一人ひとりの性格・価値観・認知症の症状が違う中での共同生活なのでストレスをためないように心がけている。今までの生活スタイルを継続したい方、皆と同じが安心と言う方などその方に合わせたケアを行い、ご自身で選択した頂く環境を提供している。調理・掃除・洗濯など家事は一緒に行い、意欲や笑顔・満足感につながるような生活をしている。職員皆が利用者さまを思い、ご家族との関係を大事にし、コミュニケーションを図っている。職員ひとりひとりが前向きにケアをし、利用者さまの笑顔につながっていると思う。